

# 継続事業評価調書

## 【河川事業】

二級河川 三原川水系

県土整備部  
土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価）

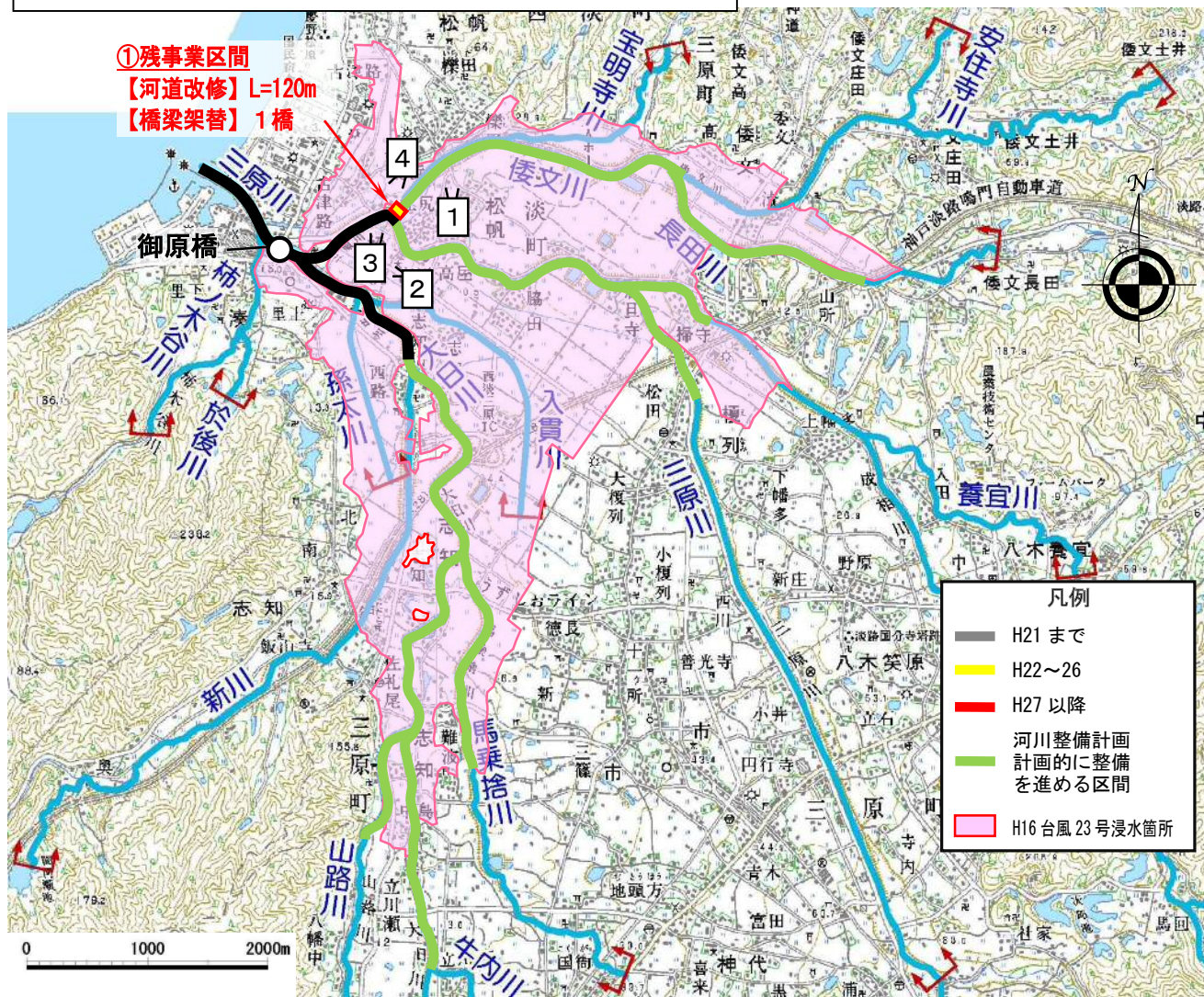
部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 岩崎 日出夫 (治水班長 高橋篤志)	内線	4408 (4437)		
事業種目	河川事業	水系名	三原川水系				
事業目的							
三原川水系では、平成 22 年 3 月に策定された河川整備計画に基づき、計画的に河川改修事業を実施し、地域住民の安全・安心を確保する。							
三原川水系における「計画的に整備を進める区間」				前回評価年度			
本川				河川整備計画 策定年度	H21		
みほら 三原川	昭和 54 年 9 月台風第 16 号洪水と同規模の洪水を安全に流下 〔御原橋：700m <sup>3</sup> /s〕						
支川				河川整備計画 策定年度 〔事業採択年度 着工年度〕	H21		
だいいち 大日川	昭和 54 年 9 月台風第 16 号洪水と同規模の洪水を安全に流下						
うまのりすて 馬乗捨川							
やまじ 山路川							
しとおり 倭文川							
ながた 長田川							
なりあい 成相川							
事業概要および進捗状況				前回評価内容			
			今回評価内容				
工区	事業区間	整備内容	河川整備計画策定 以降の事業費	事業費	残事業費 (内用地補償)	進捗率 (内用地補償)	完成予定 年度
三原川 水系	① 倭文川 〔松島橋工区〕	南あわじ市 松帆江尻	60 億円	5 億円	2 億円 (0 億円)	58% (100%)	H28
	大日川	南あわじ市 松帆志知川～志知		—	—	—	—
	三原川	南あわじ市 松帆古津路～松帆北方		—	—	—	—
	水系計			60 億円	5 億円	2 億円	58%
事業を取り巻く 社会経済情勢の 変化	平成 16、21、23 年に浸水被害が発生していることや、全国で局地豪雨が頻発していることから、地元の河川改修に対する要望がさらに強まっている。 【前回評価時点からの変更概要】 ・事業実施内容の見直し等による事業費の変更						
評価視点	評価結果の説明						
(1) 必要性	①近年の浸水被害実績 平成16年一床上浸水275戸、床下浸水 652戸 平成21年一床下浸水 1戸 平成23年一床下浸水 3戸(台風第12号)、床上浸水 2戸、床下浸水 25戸(台風第15号) ②近年の氾濫危険水位を超えた実績 平成23年－2回 ※ 既往最大浸水被害：昭和54年台風第16号（浸水面積約1,800ha、浸水家屋 約2,000戸）						
(2) 有効性 ・効率性 (事業執行環境)	①費用便益比：B/C=3.0（※河川整備計画に位置づけられた全ての事業による費用便益比） ②事業促進に対する地元の協力体制ならびに関係機関との協議・調整、用地確保が進捗しており、事業執行環境は整っている。						
(3) 環境適合性	①環境配慮型のブロックなどを用いた護岸を整備することにより、多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。						
(4) 優先性	①残事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されている。						
結再 果評 価の	継 続	左 の 理 由	当該水系における治水対策の必要性は河川整備計画策定時と変わらず、再度災害を防止するため、引き続き事業を継続する必要がある。				



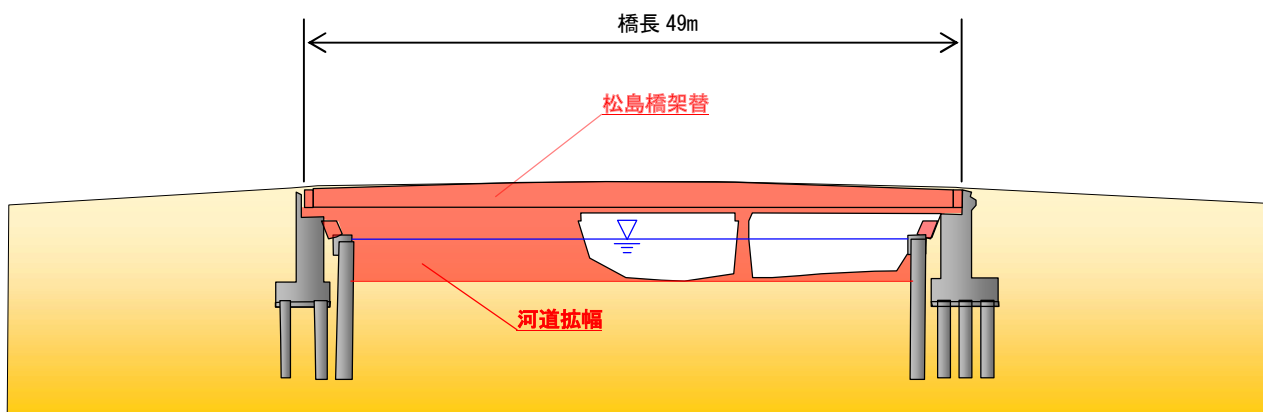


# 整備概要図

平成 16 年台風第 23 号浸水実績図及び位置図



標準断面図(松島橋:三原川・倭文川合流部)



## 整備状況

### 【浸水実績：平成16年台風第23号】

1 南あわじ市松帆地内



2 南あわじ市松帆地内



### 【残事業区間】

3 南あわじ市松帆江尻地内



4 南あわじ市松帆江尻地内



## スケジュール

河川名	種別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
倭文川	橋梁架替		仮橋設置			下部工		上部工	仮橋撤去
	河道改修								掘削、護岸

## 事業効果について

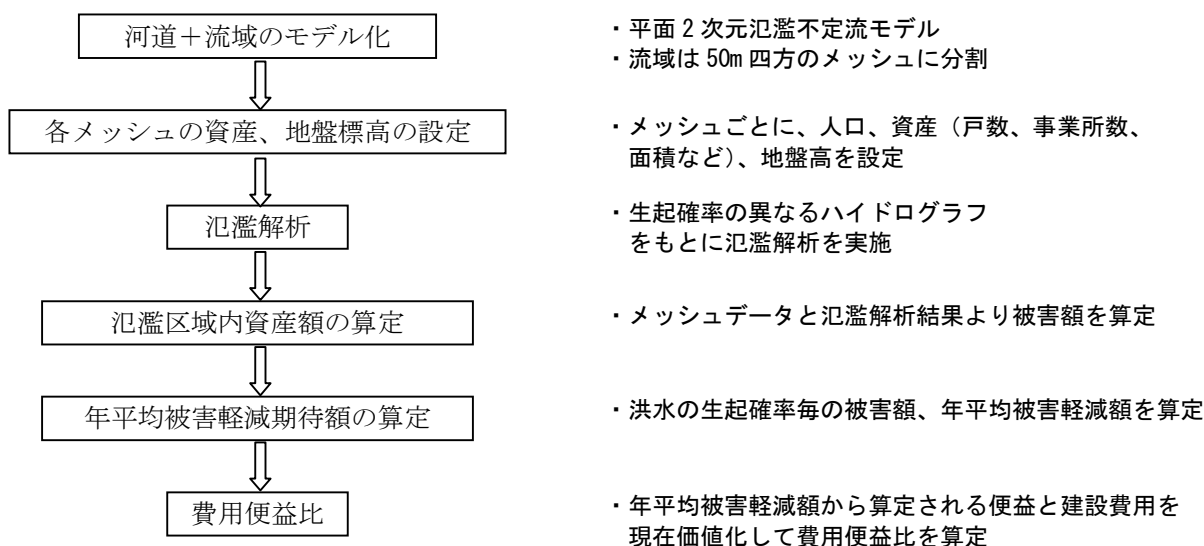
### (1) 費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・ 農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

### 便益（B）の項目

- 1) 便益＝治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額＝一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等）＋農産物被害＋公共土木施設等被害＋営業停止被害＋応急対策費用
- 2) 費用＝「建設費＋維持管理費」を現在価値化

治水経済調査マニュアル（案） 国土交通省河川局（平成17年4月）



### 費用便益比（B/C）算出根拠（H21 年度時点）

便益（B）		費用（C）			B/C
総便益	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
1,074 億円	計画規模の降雨に対して、浸水面積 132ha、浸水 113 世帯の解消	357 億円	320 億円	37 億円	3.0

### (2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 人的被害の軽減
- ② 道路の交通途絶、ライフライン停止等による波及被害の軽減
- ③ 水害廃棄物の発生の軽減
- ④ 多様な生物の生活環境の保全・再生・創出
- ⑤ 親水空間の整備・景観への配慮



評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・ 浸水区域内 1,697 人(内 65 歳以上 469 人)、災害時要援護者数 604 人の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・ 道路途絶による影響通行台数 2,174 台(県道福良江井岩屋線、県道洲本松帆線、県道阿那賀市線)
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	— (医療、社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設への浸水の影響なし)
	ライフラインの停止による波及被害の軽減	○ ・ 電力の使用不能者 733 人、ガスの使用不能者 2 人、下水道の使用不能者 15,496 人、固定電話・通信の使用不能者 737 人の解消、携帯電話・通信の使用不能者 292 人の解消
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・ 水害廃棄物推定量：1,072t ⇒処理費用：3 千万円の軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	○ ・ 環境配慮型のブロックなどを用いた護岸を整備することにより、多様な生物の生活環境への影響が最小限
	親水空間の整備・景観への配慮	○ ・ 自然環境の保全・創出に伴う河道内の自然景観の創出

※○印は当該事業効果の主な項目

### (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①南あわじ市松帆地区では、地区代表者からなる「松帆地区低地対策住民会議」を平成 21 年に設置しており、地域住民の治水に対する意識が高く、毎年、治水対策の推進について強い要望が出されている。</p> <p>②三原川水系は度重なる浸水被害が発生していることから、倭文川合流地点の狭隘箇所による浸水被害の解消とともに、大日川沿川でも河道拡幅による溢水防止対策が不可欠であるとの意見が強く、一層の事業推進が強く望まれている。</p>
-------	--

### 参考：事業の変遷

昭和 54 年：台風第 16 号  
 昭和 55 年：広域基幹河川改修事業着手（三原川、大日川、倭文川）  
 平成 9 年：牛内ダム、大日ダム完成  
 平成 11 年：成相ダム、北富士ダム完成  
 平成 16 年：台風 23 号（浸水家屋 927 戸）  
 平成 21 年：台風 9 号（浸水家屋 1 戸）  
 平成 22 年：河川整備計画策定  
 平成 23 年：台風 12 号（浸水家屋 3 戸）、台風 15 号（浸水家屋 27 戸）

### 参考：河川整備計画に位置付けられた事業の評価時期

	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
三原川	再評価						計画策定 河川整備					再評価